

令和6年9月26日
令和6年度第3回市民活動推進委員会
資料1-2

茅ヶ崎市市民活動推進補助制度に 係るWEBアンケート 調査結果

令和6年9月

茅ヶ崎市

くらし安心部市民自治推進課

アンケートの概要

●目的

茅ヶ崎市市民活動推進補助制度（以下、本制度）による市民活動団体への支援をより効果的に実施するため、これまでに本制度を活用した団体の現状を把握し、補助の効果について確認することを目的として実施しました。

●対象

令和元年度から令和5年度までの5年間に本制度を活用した34団体

●期間

令和6年8月9日（金）から8月20日（火）

●方法

e-KANAGAWA 電子申請サービスを活用し実施しました。

複数回本制度を活用している団体に対しては、最後に本制度を活用したときに連絡先として登録されたメールアドレスにアンケート依頼メールを送付しました。

●回答数

21団体

●調査結果の表示方法など

回答割合は、すべては百分率で表し、小数点以下第1位を四捨五入しています。このため、百分率の合計が100%にならないことがあります。

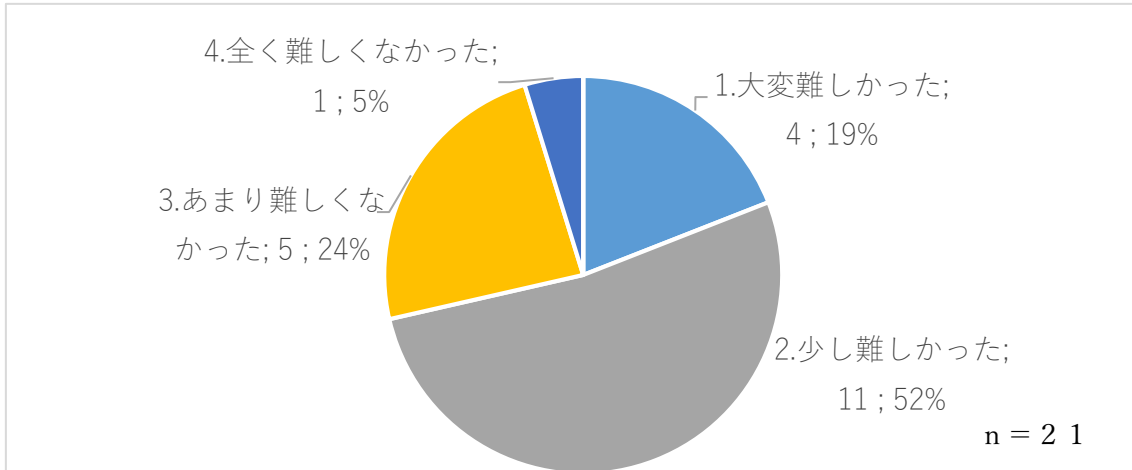
1つの質問に2つ以上回答できる「複数回答」の場合には、回答割合の合計は100%を超えることがあります。

●個人情報に係る設問の取扱いについて

回答者名や連絡先に係る設問については非公開とします。

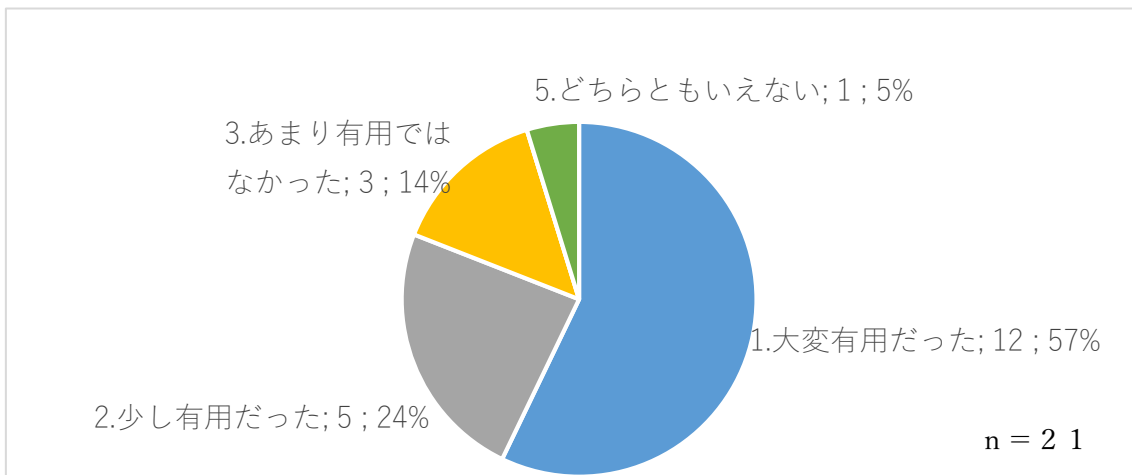
アンケート結果

- 本制度を活用した感想についてお伺いします。
- ・本制度を活用して実施した事業は、その当時の団体からみてどれくらいの難易度・チャレンジでしたか。



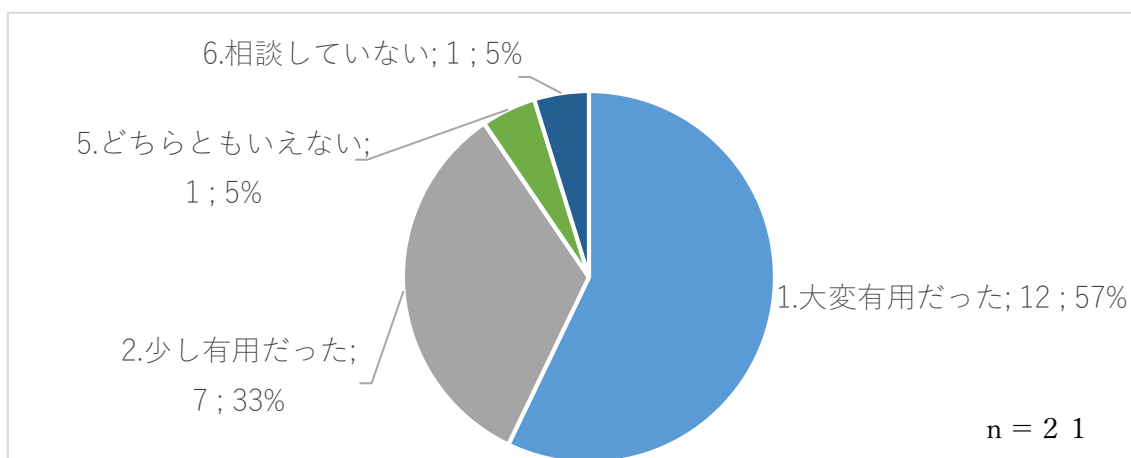
1. 大変難しかった	2. 少し難しかった	3. あまり難しくなかった	4. 全く難しくなかった	5. どちらともいえない
4	11	5	1	0
19%	52%	24%	5%	0%

- ・市民活動推進委員との質疑応答やアドバイス、評価時のコメントはその後の活動に対して有用でしたか。



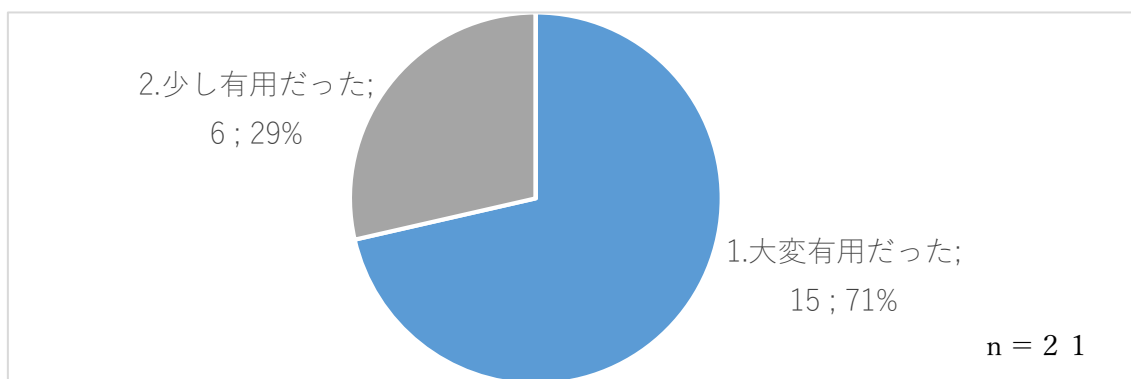
1. 大変有用だった	2. 少し有用だった	3. あまり有用ではなかった	4. 全く有用ではなかった	5. どちらともいえない
12	5	3	0	1
57%	24%	14%	0%	5%

- ・サポセンスタッフとのやりとりやスタッフから受けたアドバイス等はその後の活動に対して有用でしたか。



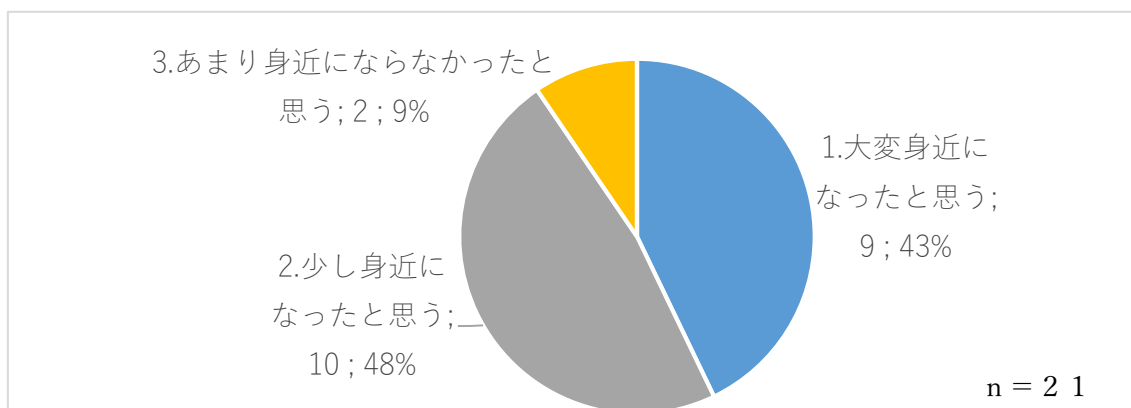
1. 大変有用だった	2. 少し有用だった	3. あまり有用ではなかった	4. 全く有用ではなかった	5. どちらともいえない	6. 相談していない
12	7	0	0	1	1
57%	33%	0%	0%	5%	5%

- ・市民自治推進課の職員とのやりとりや職員から受けたアドバイス等はその後の活動に対して有用でしたか。



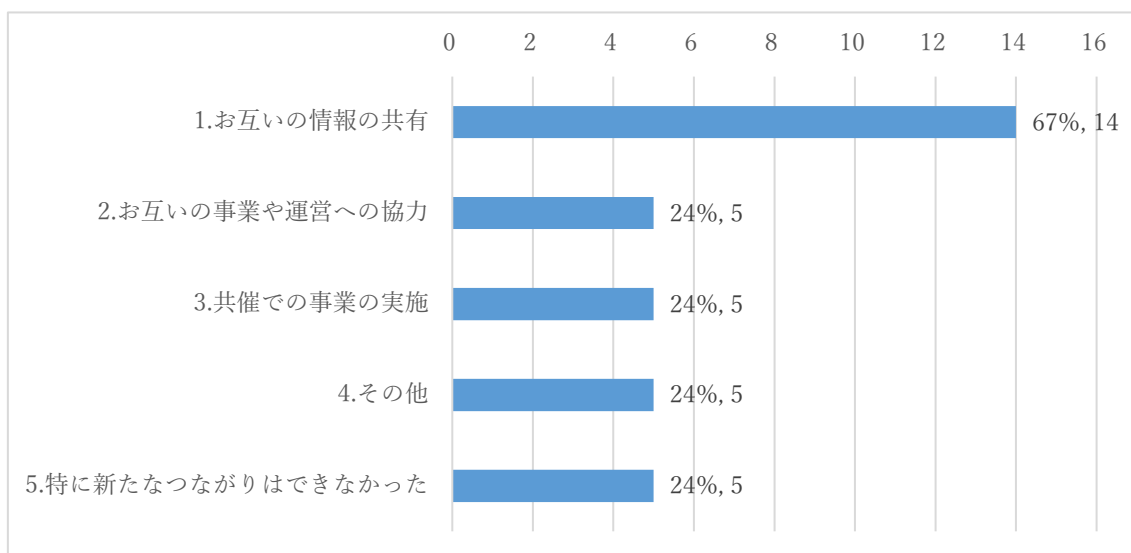
1. 大変有用だった	2. 少し有用だった	3. あまり有用ではなかった	4. 全く有用ではなかった	5. どちらともいえない
15	6	0	0	0
71%	29%	0%	0%	0%

- ・本制度を活用したことで市との距離は身近になったと感じますか。



1. 大変身近になったと思う	2. 少し身近になったと思う	3. あまり身近にならなかったと思う	4. 全く身近にならなかったと思う	5. どちらともいえない
9	10	2	0	0
43%	48%	10%	0%	0%

- ・本制度を活用したことで他の団体等（市とサポセンを除く）とどんな連携・協力ができるようになりましたか。【複数回答可】

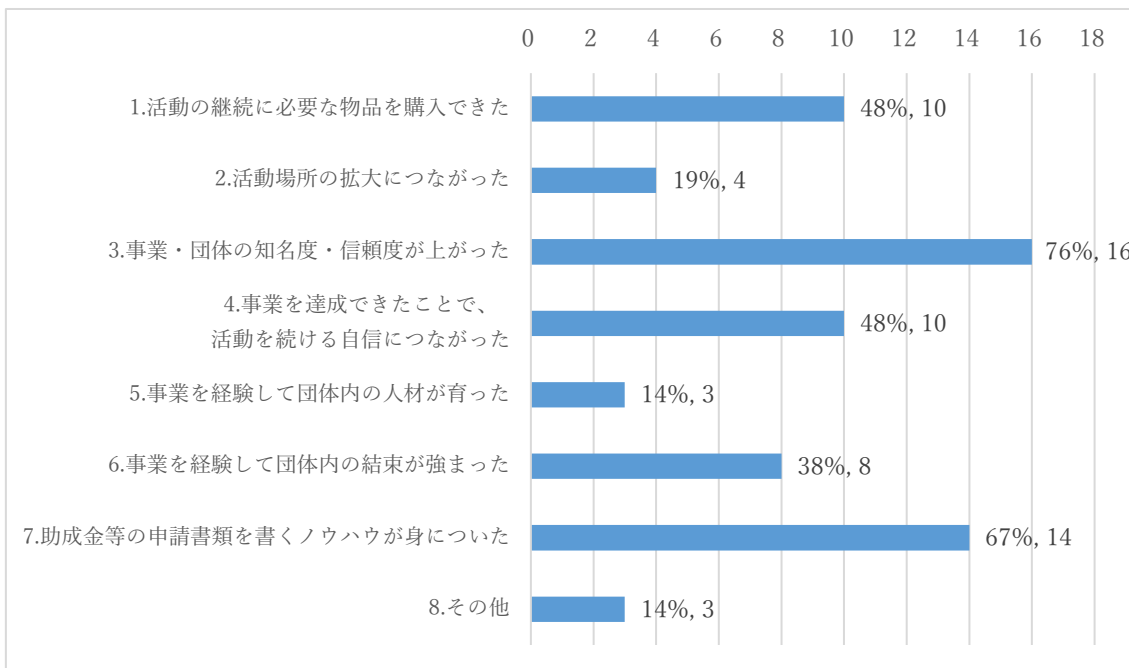


1. お互いの情報の共有	2. お互いの事業や運営への協力	3. 共催での事業の実施	4. その他	5. 特に新たなつながりはできなかった
14	5	5	5	5
67%	24%	24%	24%	24%

【その他】

近しい事業内容の団体さんはなかったのですが、運営協力や共催はなかったが、ひろっぱ club さんがうちのご近所で活動されていると知り、げんき基金を補助して頂いてから今まで、何回も、活動に参加させて頂いています。
セカンドワーク協会さんに大変お世話になっており、その後も制作をお願いしています
こちらからの一方的な形ではあるが、他団体の事業や状況を調べるようになった。
制度活用後に、すぐには具体的な協業には進まなかったが、連携の重要性を強く認識できた。
精神的な支え合い

・上記のほか、本制度を活用して事業を実施したことでどのようなメリットがあったと感じますか。【複数回答可】



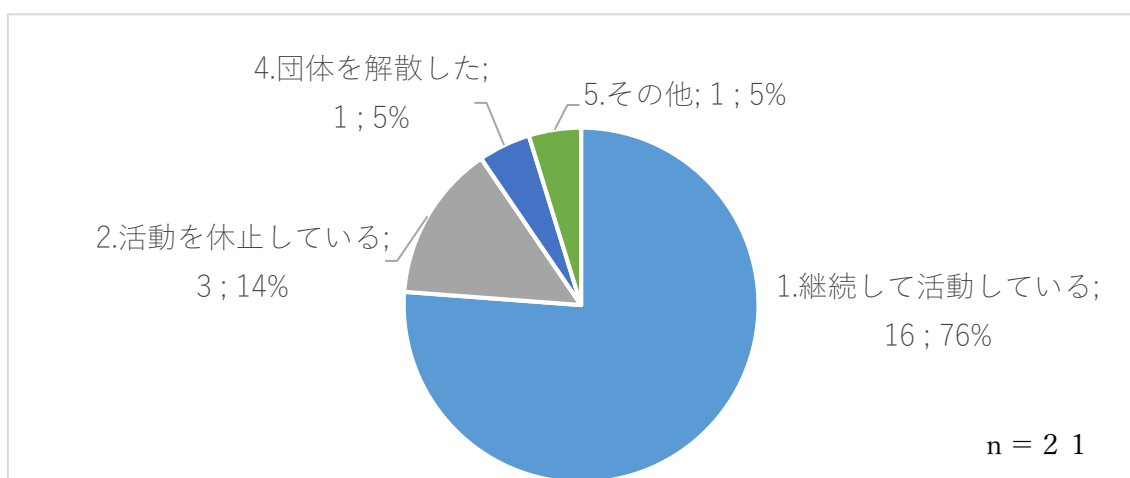
1. 活動の継続に必要な物品を購入できた	2. 活動場所の拡大につながった	3. 事業・団体の知名度・信頼度が上がった	4. 事業を達成できたことで、活動を続ける自信につながった	5. 事業を経験して団体内の人材が育った	6. 事業を経験して団体内の結束が強まった	7. 助成金等の申請書類を書くノウハウが身についた	8. その他
10	4	16	10	3	8	14	3
48%	19%	76%	48%	14%	38%	67%	14%

【その他】

考え方が身についた
その当時、医療的ケア児を授かって、その看護育児に追われ、自分が社会と断絶されているような強い焦燥感がありました。久しぶりにビジネス文書を書き、プレゼン資料を作り、プレゼンをし、企画実施をしたことが、震えるくらいの喜びだったことを覚えています。
一般的信頼度の強化

●本制度を活用された団体の現在の組織・運営についてお伺いします。

・本制度を活用した団体の現在の状況について教えてください。

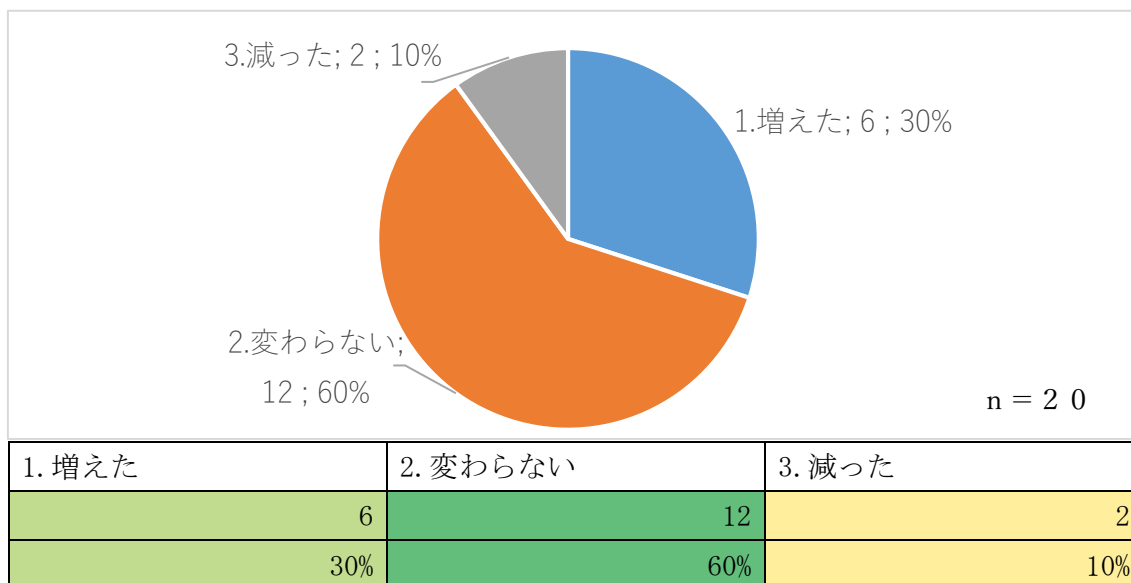


1. 継続して活動している	2. 活動を休止している	3. 他の団体と合併した	4. 団体を解散した	5. その他
16	3	0	1	1
76%	14%	0%	5%	5%

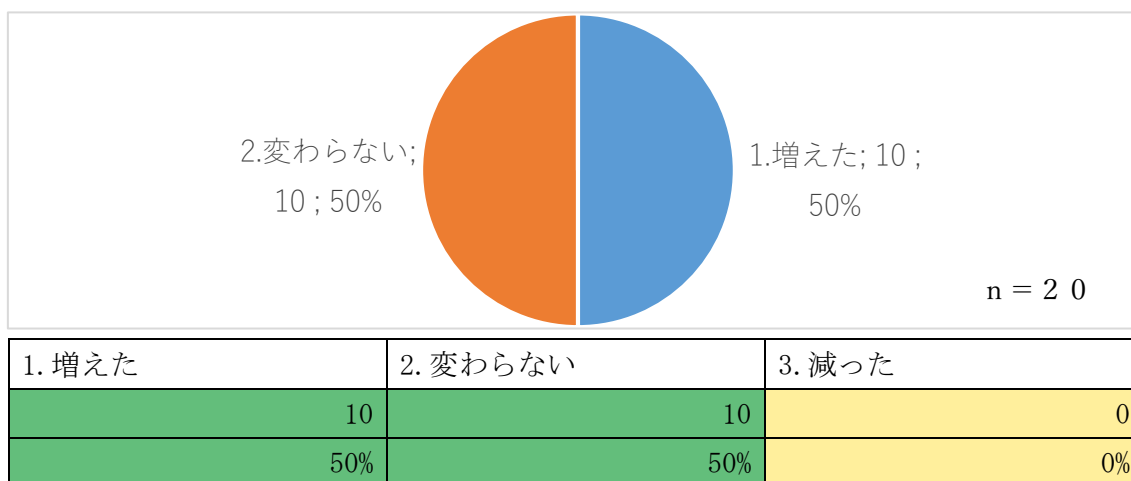
【その他】

継続して活動しており、さらに別に「かながわ県医療的ケア児者家族会～つなぐ～」を2022年から立ち上げました。
--

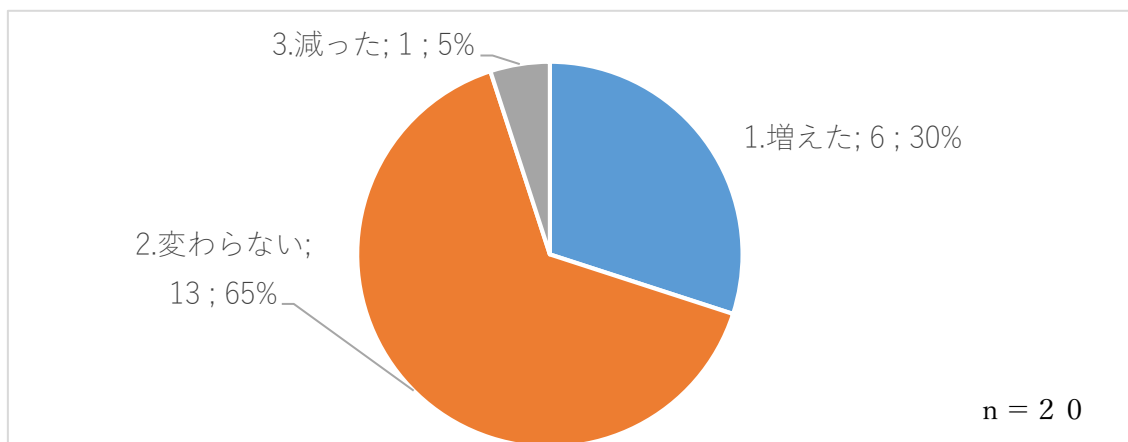
- 現在の団体の会員の数は本制度を活用する前と比べて増えましたか。



- 現在の現在の団体の活動への協力者（ボランティア等を含む）の数は本制度を活用する前と比べて増えましたか。



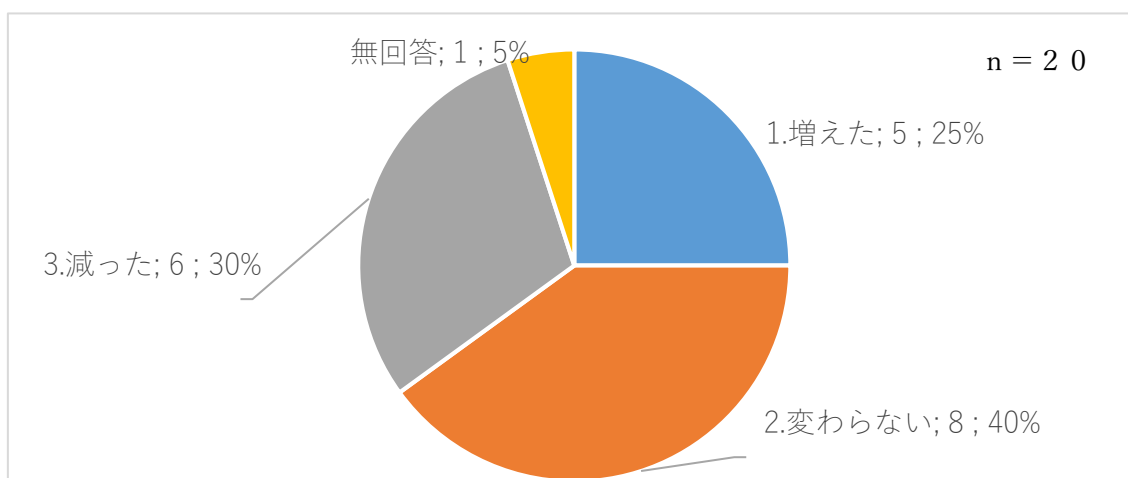
- ・現在の団体の予算額・規模は本制度を活用する前と比べて増えましたか。



1. 増えた	2. 変わらない	3. 減った
6	13	1
30%	65%	5%

- 本制度を活用された団体の現在の活動についてお伺いします。

- ・現在の団体の活動の回数は本制度を活用する前と比べて増えましたか。



1. 増えた	2. 変わらない	3. 減った	無回答
5	8	6	1
25%	40%	30%	5%

【減った理由】

自己都合。生活が変わったため
メンバーの病気や生活の変化によるもの
公立保育園と現在は関わっていないからです。
規則を改正して、定期的な活動を縮小した。
本制度は3回までとの規則があり2年継続で活用させていただき今までのより方や今後

の広げ方などを1年休止して見直す事にしました。最終目標に近づくには異なるフィールドの開拓が必要ではないかと考えたから、最後の3回目の活用が確実に次ぎに繋がるよう考えて行きたいです。

げんき基金事業を終え、疲弊しているスタッフが居たり継続の仕方に課題を抱えているため課題解決に時間をかけており事業実施できていない。

- ・現在の団体の活動の受益者は年間何名程度ですか？

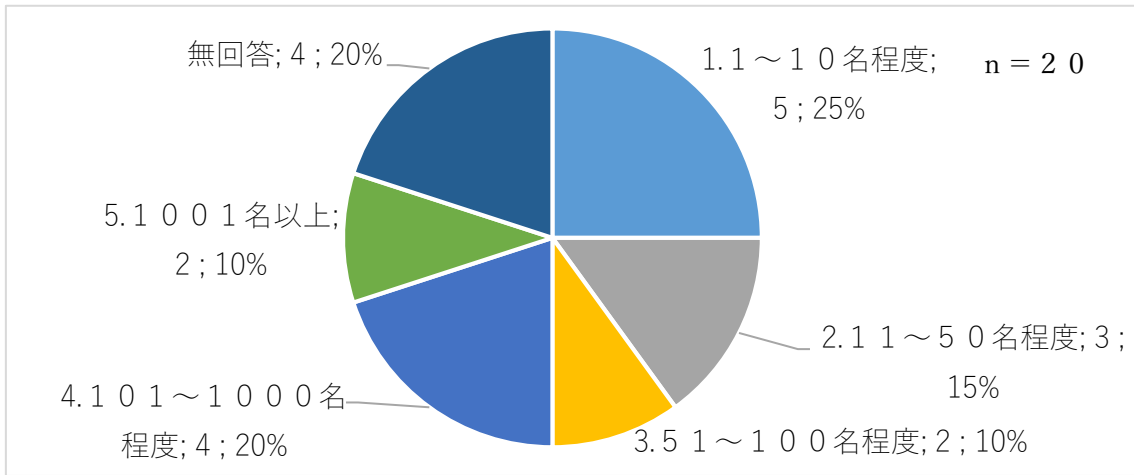
※ここでのいう受益者とは、活動の恩恵を受ける方の人数です。イベントであれば来場者数、ホームページであれば閲覧者数、広報紙等の発行であれば、読まれている人の数などが該当します。

n = 16 累計受益者数 26,833名

【内訳】

3	20	40	50	100
120	200	200	200	300
500	600	1000	1500	2000
20000				

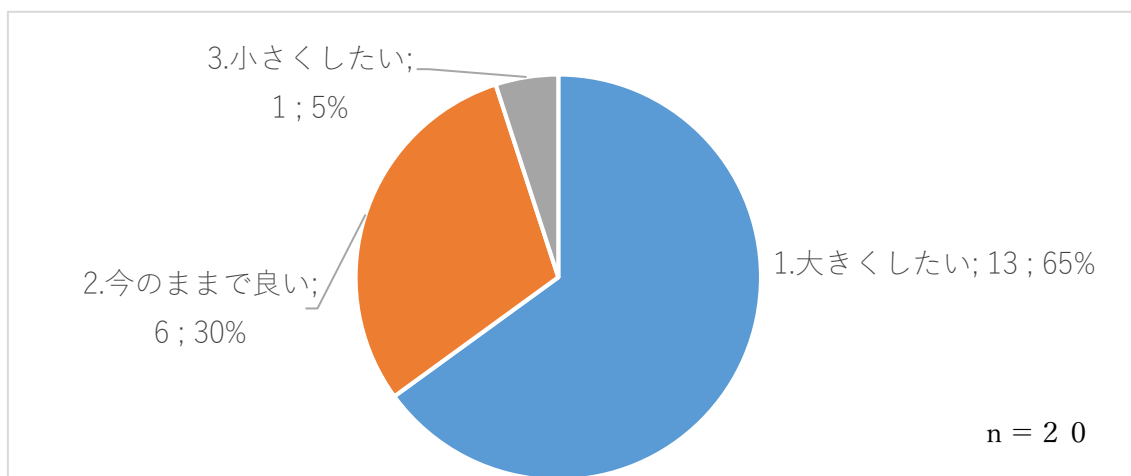
- ・現在の団体の活動の受益者は、本制度を活用する前と比べて、年間何名程度増えましたか。



1. 1.1 ~ 10名程度	2. 1.1 ~ 50名程度	3. 1 ~ 100名程度	4. 101 ~ 1000名程度	5. 1001名以上	無回答
5	3	2	4	2	4
25%	15%	10%	20%	10%	20%

●本制度を活用された団体の今後の展望についてお伺いします。

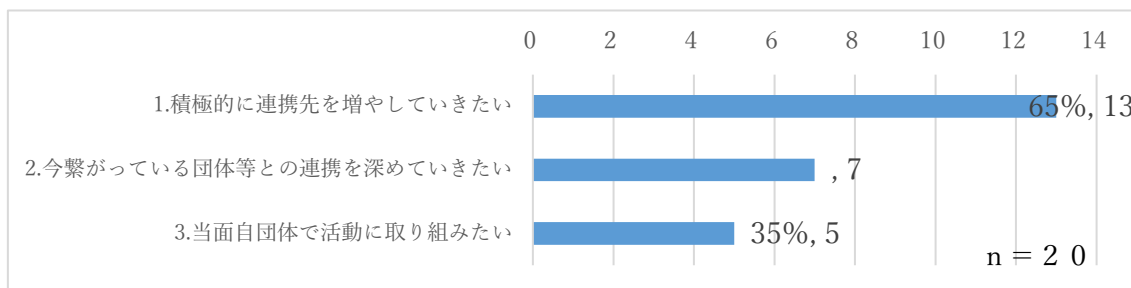
・今後、団体の活動の予算や規模は大きくしていきたいですか。



1. 大きくしたい	2. 今のままで良い	3. 小さくしたい
13	6	1
65%	30%	5%

・他の団体等と連携・協力した活動の意向について教えてください。【複数回答可】

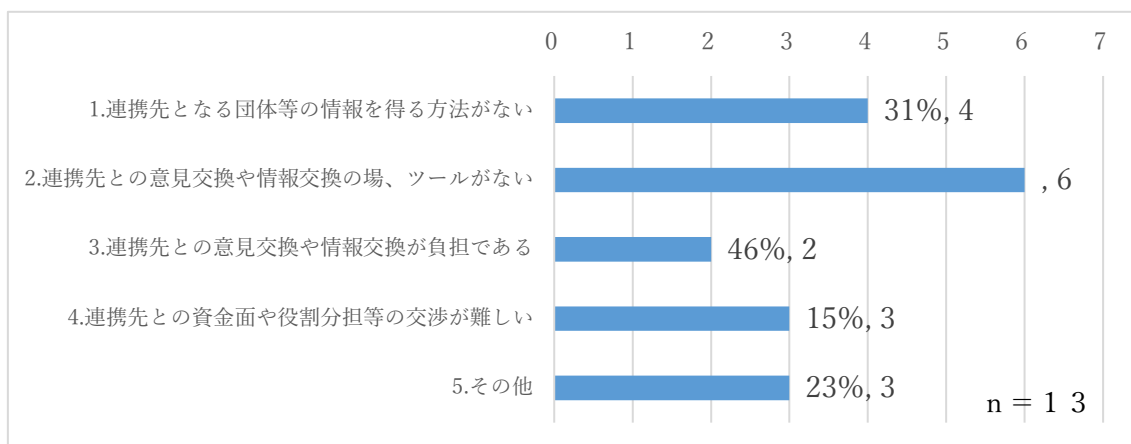
「1. 積極的に連携先を増やしていきたい」「2. 今繋がっている団体等との連携を深めていきたい」と回答した方は次の質問にもお答えください。



1. 積極的に連携先を増やしていきたい	2. 今繋がっている団体等との連携を深めていきたい	3. 当面自団体で活動に取り組みたい
13	7	5
65%	35%	25%

- ・他の団体等と連携した活動を進めるにあたって難しいと感じていることを教えてください。

【複数回答可】



1. 連携先となる団体等の情報を得る方法がない	2. 連携先との意見交換や情報交換の場、ツールがない	3. 連携先との意見交換や情報交換が負担である。	4. 連携先との資金面や役割分担等の交渉が難しい。	5. その他
4	6	2	3	3
31%	46%	15%	23%	23%

無理なく、楽しくをモットーにぼちぼち進めていくのが地域では大事だし、そうしたいと思います。

連携先の予定調整。活動を進めるにあたっての事務的な時間。

とくにありません。

- ・上記のほか、今後に向けて団体の展望や課題がありましたら自由に御記入ください。

(n = 16)

本研究会の発足から2年余り発信活動を積極的に行なった結果、予想以上の成果を得ることができた。今後は活動規模を縮小して、細く長く研究、発信活動を継続したい。年度ごとに活動計画を作成するが、大規模な発信活動を行うときは再び「げんき基金」の助成をお願いしたい。

スタートアップは「サンチャイ・ネパールねばるば」

2度目はその別部門として「みんなの居場所びすたーり」として応募しました。

場所を移すに当たってそれぞれが独立したグループになりました。このアンケートはみんなの居場所として返信させて頂きました。

今後、生き辛さを抱えた人やこどもたちの居場所として、どうしていくか。ゆっくりながら広がっていけば良いなと思っています。

大きくなる事が大事では無いと思っていますが、ふと、ゆっくりしたい時に思い出してもらえ

<p>るような場になりたいと思っています。</p>
<p>いつも大変お世話になっております。 貴重なお仕事をありがとうございます。 おかげさまで活動も広がりまた様々な団体との連携など大変有難く思います。 団体展望におきましては申請書などで記載させていただいた内容と同様となっております。 2年目の活動の中で課題は特に当団体において関係機関との連携強化が問われている中その重要性を伝えていくためのスキルが課題です。 社会的な課題に対する市民活動においては信頼責任継続の上でも行政、自治体の共同することでニーズに対して順即に対応が可能となってくると感じております。 これからも地域レベルで汲みとったニーズを可視化、視覚化できるようなみなさまのご協力もと尽力したいと思います。 今後ともよろしくお願い致します。</p>
<p>さらに茅ヶ崎を中心に積極的に活動していきたいと思うが、団体に参加する人数が増えるに伴い、スタッフ側の人員補強や練習のための場所（公共施設等）、イベント発表の場所（劇場等）の確保が難しくなっている。 今後も情報を探し、多方面の様々なサポートを受けながら、よりより活動ができるようにしていきたい。</p>
<p>課題としては補助金の使い方です。使いたい場所に使えないこと、本来は自分達で創るべきと考えている場所には外注で使える、これには腑に落ちないのですが、規則で在れば使い方を上手く考える事が必要だと思いました。</p>
<p>子どもの成長とともに自分の余力が少なくなっているため活動したい気持ちはありますが、厳しいのが現状です。 ゆっくりのんびり長くを目標にマイペースにやっっていこうと思います。</p>
<p>2023年度の事業報告書の説明を以下、抜粋します。 会員数は2023年度末現在で37名である。 協会運営の要となるGM会議を8回、理事会を4回開催した。 シニア世代と現役世代による多世代コミュニティを構築し、「Web制作」等に関する事業を通じて「仲間との出会いの場」「学びと成長の場」「実務の実践の場」を提供し、職業能力の開発に寄与するという当協会の目的に対し、一定の成果があったと判断する。 年度後半に3件のホームページ制作業務を受託し、納期通り作業を完了することができた。 また「まちぢから協議会連絡会様」のWebサイト運用・保守事業を継続している。 加えて「NPO法人こども応援丸様」との連携による中学生に対するキャリア教育や、「特定非営利活動法人パソコンボランティア湘南様」と連携した「茅ヶ崎デジタル化推進活動」など、社会貢献が期待できる多様な活動を開始した。 2024年度は、さらに高い目標を設定し、組織力（特にWeb制作に関する総合力）の向上のた</p>

<p>めの具体的施策を実行していきたい。</p>
<p>ラフター(笑い)ヨガは笑いの効用とヨガの呼吸法を合わせた心と身体の健康法として全世界に広がり、日本でも全ての都道府県で実施されている。</p> <p>笑いによる健康への効用は科学的に証明されており、社会にもたらす恩恵も大きい。</p> <p>茅ヶ崎ラフターヨガクラブは「地域を笑いのオアシス!」をモットーに活動を開始し、本年9月で満6年となる。</p> <p>活動は毎月1回の例会(20~30人参加)の他、各地公民館事業、コミセン事業、包括支援センター、施設、老人会への「笑いの出前」を行っている。</p> <p>今後は「笑いの出前」を更に幅広く展開したいと考えているが、特に茅ヶ崎市の公的事業への参画を希望している。</p>
<p>基金からの補助を受けて格安でSUP体験会を実施できました。SUPの楽しさを茅ヶ崎の子供たちに伝えていけていると思います。継続して実施する場合は、会費を高くする必要がありますが、少しずつ一定の期間で実施していきたいと思います。</p>
<p>2回の事業を通して、当団体の目標を見つめ直している際にコロナ渦となりました。</p> <p>地域に対しての想いは変わらないのですが、同じ手法ではなく、別の角度からのアプローチも必要ではないかと様々動いておりました。</p> <p>今後は、更に視野を拡げて、他団体との連携も含めてアプローチしていきたいと思っています。</p>
<p>活動を知らせる場所が少ないです。</p> <p>広報に掲載されるとかなり有効的ですが。</p> <p>他の地元情報誌が無く、タウンニュースも元気基金を頂いた時は、掲載していただけたのですが、それ以降は、掲載料を支払わなければならないので、予算的に厳しくなりました。</p> <p>SNSなどで、コンサート情報を流して集客をしています。</p> <p>コンサートを多くの人に知ってもらえて、集客に繋げていくかが、今後の課題です。</p>
<p>利益がでる事業ではないため、運営資金は毎年の課題である。</p> <p>また、今年度はこれまで課題であったお母さんのメンタルサポートを、必要性に迫ったときに自団体に抱えずに市に我々も相談しながら(家庭児童相談室)行っていきたい。</p>
<p>南湖ハウスの活動は、子ども若者を中心に大人たちの顔の見える安心な出会いの場になれたらとの想いと、制度を変えるという根本的な(国レベル)ことへの挑戦です・・・これは、早稲田里親研究会との協働。</p> <p>地域(具体)と国(抽象)のどちらも大事だし、同時並行で進めるのが良いと感じています。</p> <p>若者たちが結婚や未来を諦める傾向があり、未来に希望を持てるようにすることは、先を生きる者の責任だと思います。</p> <p>60年余りを生きてきて、何が変わってきたのか?少しずつ見えてきましたが、話し合いながら、昔の良き日本の習慣(下宿など)も再開したらいいと思っています。</p>

メンバーの病気、会長である私の生活の変化で実際に活動が難しいため、手がまわらない状況。

学校の先生方やワークショップを開催してみたい方へのノウハウを伝える等に変更しようか悩み中。

団体の事業実施に関して：

- ・子育て世帯の協力者が多いため安定した運営が難しい
- ・イベント実施時の協力者は、継続してボランティアをすることが困難であるため、人件費を捻出する必要がある。

市民に広く参加してもらうためのイベント実施は、参加費を安価にする必要があり両者を一度に叶えることが難しい。

- ・ボランティアベースの活動は、代表負担の比重が大きい。

団体の展望に関して：

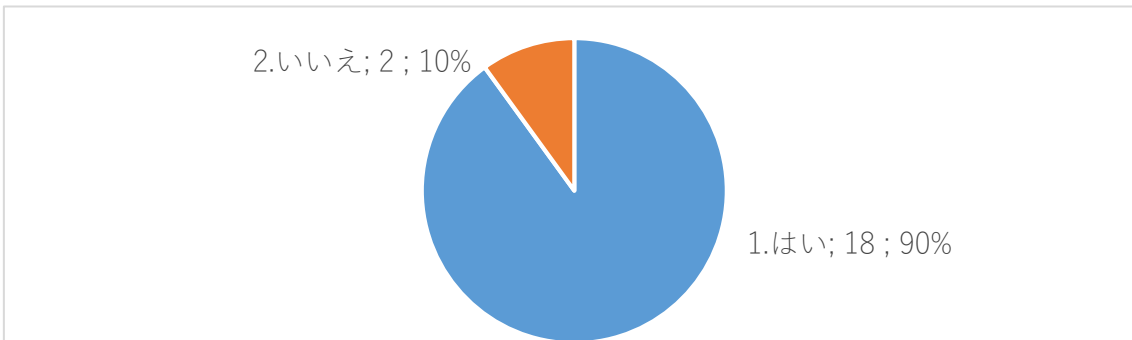
- ・他団体との協働を継続する・人件費を含め、安定した運営が出来るように戦略をたてているところ

運営者が変わって感心が薄れた様子です。

●今後の情報共有に関する取組の検討についてお伺いします。

市では市民活動団体等が実施する事業や取組を市を含め相互に共有する取組について検討をしています。

- ・上記のような取組への協力の可否について意向を教えてください。



1. はい	2. いいえ
18	2
90%	10%

アンケート調査への御協力
ありがとうございました。

